

(同封菊池長閑筆)

明治六癸酉十二月再改

五拾兩

真文 十四兩三分

草文 四十五兩一分 | 此一分ハ矢張真文なり

(封筒表)

「陸中盛岡外加ノ野

(消印1)菊池長閑君」

(封筒裏)

「 四番町老番地

(長閑注記)菊池武夫

(消印2)

(長閑注記)

「六ノ廿六日達廿七日返事出し」

(消印1)

「東京・一四・六・一九・ロ」

(消印2)

「盛岡・陸中・南岩手・六・二六」

116 明治14年6月19日 菊池長閑宛

古金の相場即今少く直りたる故売払へくと存し念の為開封して  
改たる宛別紙上封の内訳とハ相違いたし居即ち左の如し

真文一分

五拾兩

右一包

同

拾五兩

同小判

三兩

草文同

十兩

い一文

二十五兩

右一包

右念の為申上置売たる上ハ猶申上へし

明十四 政国ハ未た着す或ハ今夜方にもつくか

六月十九日

武夫

父君